

地域畜産振興部門

秋田県横手市

株式会社菅与 食品リサイクル工場

食品ロスの再資源化で環境と食の
安全・安心をつなぐ



㈱菅与 食品リサイクル工場の皆さん

株式会社菅与（すがよ）グループは、1989年に設立された畜産飼料販売企業を基礎として、養豚業（1991年）、産業廃棄物処分業（2005年）に進出するとともに、食品リサイクル工場を創業、本来の畜産飼料販売に加えて、食品リサイクル工場によるエコフィード生産および直営養豚・酪農グループ会社による畜産生産のグループ経営の多角化（グループ従業員約100人、うち食品リサイクル会社10人程度、身障者を含む貴重な雇用の場の創出となっている）を進めてきている。

対象のリサイクル食品は、秋田、岩手、山形、宮城、福島と東北一円の食品メーカーと連携して収集する、チーズホエイ（全酪連北福岡工場：岩手県二戸市）、麺類、おから、パン・菓子類・焼酎・ジュース粕、豆腐・大豆等の食品残さ。年間5800t受け入れる食品リサイクル工場は、広域集配型リキッドフィーディングシステムを導入している点に特徴がある。

秋田県における食品残さの資源化や稲WCS生産は、その受け皿となる畜産経営が少なく、普及拡大には大きな障壁となってきた。（株）菅与は十分に活用されてこなかった食品残さに着目し、地域の食品企業が廃棄してきた食品残さの受け入れを進め、これらの食品企業の資源リサイクルへの関心を高めてきた点が、第1にあげられる特徴といえよう。

稲作農家や食品企業との連携によって、資源

循環を持続的なビジネスとして定着させてきた地域振興としての貢献は大きい。

第2の特徴は食品残さのシステマチックな処理・貯蔵、給餌。食品廃棄物は、提携食品メーカーと受け入れ条件を協定（生ゴミや腐敗物は受け入れない。食品ロスをメーカーが責任保存、受け入れ時にチェック）、入荷後は手作業で選別・区分け（従業員10人）を行い、安全確保を徹底するとともに、成分を考慮してパンリキッド、麺リキッドなど処理・貯蔵段階で区別できるよう工夫している。

原材料は、食品加工メーカーからほぼ定量の食品残さが排出されるため、時期による原材料の変更等はほとんどないという。pH4.5以下に調整する形で貯蔵タンク3本（50t×3）に分別保存、タンクローリー2台（10t×2台×1日2回配送、1日40t程度）体制で5ヵ所の関連養豚畜舎（秋田・岩手・山形）に配送する。各畜舎にも貯蔵タンクがあり、そこからパイプラインで自動給餌するシステム（飼料給与量の約4割）を採用している。

第3に、主力の養豚は年間出荷頭数5万5000頭で、うち約3万頭が自社ブランド「笑子豚（エコブー）」として、海老名サービスエリアレストラン、大手外食チェーン、県内外食店等と提携して販売すること。本格生産の始まった酪農等でも「笑子乳・笑子牛（エコミルク・エコギュー）」として直売チャネルの拡大を図っている。

活動のようす



▲飼料への異物混入を防ぐため、原料の分別は全て従業員が手作業で行っている。



▲リサイクル飼料で飼育したブランド豚肉『エコの森・笑子豚』を確立し、販促活動に取り組んでいる。



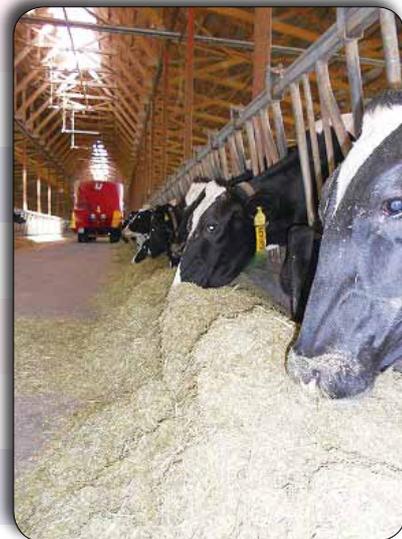
▲リキッド飼料は、pHチェックや調合タンクの点検清掃、異物混入検査を実施し、出荷している。



▲地域の耕種農家と連携し、飼料稲、デントコーンなど地域資源を活用した自給飼料生産にも取り組んでいる。



▲肥育豚に給与される飼料の4割をリキッド飼料で賄い、年間5.5万頭を出荷している。



◀ 新たな挑戦として、食品ロスから生まれるリサイクル飼料と地域資源である粗飼料を組み合わせた飼料づくりに取り組んでいる。